第２講
人口移動

人口について経済学的な視点からとらえていこう。ここでポイントとなるのは経済的な概念である。経済レベルの低い地域から高い地域へと人々が流動する様子を考察する。

２．１　「金」を求めての移動

現代の人口移動の鉄則は「経済レベルの低いところから高いところへ」。同じ国内からは地方の農業地域から商工業の発達した都市への人口移動がみられ，国境を越えた国際的な移動ならば発展途上国から先進国への出稼ぎが顕著となる。

＜チェック！＞

アメリカ合衆国における人口移動。独立以前にはイギリス植民地としてイギリスからの移民が多かった。例えば，アメリカ合衆国のエリート層のことをワスプ（ＷＡＳＰ）というが，これは最初に北アメリカ大陸に移住してきた主にイギリス系の人々の子孫。反対に独立以降に移住してきたイタリア系などカトリック教徒は社会的に低い立場に置かれている。

19 世紀後半以降は，東から西への移動。とくに，衰退する工業地域を抱える北東部は人口減少地域であり，サンベルト（北緯 37 度以南の地域）や太平洋岸など南西側の地域へと大きく人口が流動していった。

また，最近はメキシコ系の移民（ヒスパニック）の流入により，カリフォルニア州などメキシコ国境沿いの人口増加率の高さが際立つ。

ただし，北東部にもボストンやニューヨークなどの大都市が並び，一概に「経済レベルの低いところから高いところに人口が移動する」パターンには該当しない点に特徴がある。

２．２　人口移動の理由

人口移動の理由については，出稼ぎなど商工業労働者としての移動を考慮する。ただし，これをさらに拡大解釈してさまざまな人口移動の目的を考える。

まず重要なキーワードとなるものが「留学」。出稼ぎと同様に（あるいはそれ以上に）経済レベルの低いところから高いところへの移動の向きがはっきりして

いる。またイギリスやオーストラリアなど英語を使用する国への留学が多いのも特徴的。

また，現在ではみられないが，農業や鉱業の労働者としての移動というパターンもある。この典型的なものとしては，天然ゴム園などで労働のためにマレーシアへと移民した中国人やインド人がある。またアメリカ合衆国南部の綿花プランテーションにおける黒人奴隷のように，強制的に移動させられた例も当時はあった。

＜チェック！＞

金鉱の発見は，それを採掘しようとする人々の流入を促すものであるが，さらに白人がそれを独占しようとすることによって差別政策の遠因ともなる。

・アメリカ合衆国・・・カリフォルニア州における金鉱の発見→白人の太平洋岸への移動→アメリカインディアンの迫害
・オーストラリア・・・金鉱の発見→中国人の流入を制限→白豪政策
・南アフリカ共和国・・・金鉱の発見→移民と先住民の迫害→アパルトヘイト

２．３　日本とブラジル

日本とブラジルの関係について強調しておきたい。明治から昭和にかけての時代，日本からブラジルに多くの農業移民が生じた（古い時代なので，工業などではなく，農業である点に注目）。日本の国籍を持ちながらブラジルに永住する者も多かった。またその２世３世である日系人の数も多く，ブラジルには世界最大の日系人社会が形成されている。なお，日系人の多くはすでに現地の国籍を有しており，これは「日本人の数が多い」という意味ではないので注意。

現在はこれとは逆にブラジルから日本への人口移動（出稼ぎ）が目立っている。1990 年に出入国管理法など移民に関する法令が改定され，日系人に限り単純労働者の日本国内での就業が可能となった。もともとも日系人人口の大きなブラジルからの入国者が 90 年代前半に一気に増加した。現在は，日本国内の登録外国人の国籍としては，ブラジルが５位（１位中国，２位韓国･朝鮮，３位ベトナム，４位フィリピン）。彼らの多くは自動車工業を中心とした製造業に従事している。

[知っておこう]

地理は「年号」と「法律」に関する話題はあまり出題の対象にならない。しかし「1990 〜 1991 年に生じた３つの法制的な変化」は頻出であるので，ぜひとも知っておこう。

１）出入国管理法（移民法）改正

外国人単純労働者の入国・滞在は制限されていたが，1990 年の法律の改正によって緩和された。主に日本人の移民たちの子孫である日系人に関しては，単純労働目的であっても日本国内での就業が可能となった。これにより最大の日系人人口を持つブラジルからの入国者が 90 年代前半に急増した。

２）オレンジ・牛肉の輸入自由化

1980 年代の貿易摩擦の時代を経て，赤字国であるアメリカ合衆国は日本に対し農産物の市場開放を求めた。1991 年にオレンジと牛肉については貿易が自由化され，安価な海外産の農畜産物が流入する一方，国内の農家は経営に窮した。生産物の高級化などによって対抗する農家もあったが，廃業に追い込まれた者も多い。

３）アパルトヘイトの撤廃

黒人や有色人種に対する人種隔離政策（アパルトヘイト）に関する法律が，南アフリカ共和国で撤廃されたのも 1991 年。居住場所や職業選択の自由など経済的には解放された黒人であったが，生活水準は低く，富を未だ独占するヨーロッパ系白人との経済格差は大きい。

２．４　現代の日本人の移動

現代社会において，経済レベルの高い日本から出稼ぎのような形での人口移動はない。日本人の出国先として最も重要なのは，ビジネスや留学，観光（グアムやハワイを考える）のため訪れる人が多いアメリカ合衆国である。滞在・居住する日本人(在留邦人)の数もアメリカ合衆国が最大。「日本からアメリカ合衆国へ」というベクトルの向きを意識しよう。

＜チェック！＞

外国に滞在する日本人を海外在留邦人という。長期滞在者と永住者に分かれ，永住者の割合が高いのはブラジルなどかつて日本から農業移民が生じた国。長期滞在者のうち，留学の割合が高いのは先進国で，とくに英語圏における邦人の数は多い。

２．５　地域別にみた国際的な人口移動

・中国・・・経済発展を続ける沿海部への出稼ぎ労働者の流入は著しいが，その出身地は同じ中国の内陸部。１人当たりＧＮＩが高くない中国へは原則として外国人の流入はない。

・西アジア・・・オイルマネーで栄えるＯＰＥＣ諸国へと，周辺地域から労働者が流入。彼らは主に建設業に従事する。そうした外国人労働者への依存度が高い地域でもある。

・ドイツ・・・戦後復興・高度経済成長期にトルコなどから出稼ぎ労働者を迎え入れる。オイルショック後の不況によってトルコ人たちは帰国を促されたが，彼らの多くはドイツ国内にとどまった。人種的・宗教的な対立に起因する排斥運動も。

・フランス・・・かつては旧植民地である北アフリカ諸国からの労働者の流入が多かったが，近年は同じＥＵ圏内のポルトガルからの出稼ぎが増加している。

・アメリカ合衆国・・・メキシコからの移民（ヒスパニック）が多いが，近年は太平洋沿岸地域を中心に中国などアジアからの移民が増加している。

・オーストラリア・・・1970 年代の白豪政策撤廃後はアジアからの移民が増加し，経済的にもつながりを深めている。

＜チェック！＞

「ヒスパニック」は直訳すれば「スペイン語話者」であるが，とくにメキシコやカリブ海地域からのアメリカ合衆国への移民を指す。彼らの行き先としては近接するアメリカ合衆国が主で，カナダやオーストラリアへの移民は多くない。

２．６　マレーシアにおける人口流入の歴史とブミプトラ政策

マレーシアは移民によって成り立った多民族国家である。独立以前のマレー半島には農園（天然ゴム）・鉱山（銅鉱）労働力として中国やインドから多くの移民が流入した。このためマレーシアは，先住のマレー系に加え，中国系，インド系住民も比較的多い複族（多民族）国家となっている。当初は移民として流入しながらも徐々に経済的な力を蓄え，現在は主に都市部で富裕層を形成する中国系住民に対し，マレー系住民はとくに農村において多数を成し，経済的には恵まれていない。このため，政府はマレー系住民を優遇するブミプトラ政策を実施し，企業融資や奨学金の付与，農場への入植など様々な面においてマレー系住民の権利が尊重されている。ただし，都市部を中心に他民族集団からの反発も強い。

<チェック！>

マレーシアとシンガポールの関係は重要。シンガポールはマレーシアから分離独立した国。中国系住民が人口の４分の３を占めるが，公用語はマレー語，中国語，タミル語（インド南部の言語），英語の４つ。一方，マレーシアはマレー系住民，中国系住民，インド系住民がそれぞれ６：３：１として覚えておこう（正確な数値は，62%，23%，７%。ただし過去問では６：３：１の形で出題されやすい）。複雑な民族構成を持つ国だが，公用語はマレー語であり，イスラム教が国教に指定されている。

２.７　人口移動の問題点

出稼ぎ労働者が現地の国籍を得るケースは少ない。ペルシャ湾岸など経済レベルの高い小国では，外国人労働者の数が自国民の数を上回ることもある。また，ドイツにおけるトルコ人など，宗教や生活習慣が異なるため，さまざまな社会問題が生じることもある。

先進国と発展途上国との間の格差，あるいは発展途上国の中でも資源を持つ国と持たざる国との間の格差は，さらに拡大しつつあり，人口流動の勢いも激しさを増している。

２.８　難民の移動

内戦によって多くの難民が生じているが，国連や先進国による救援体制は十分に整えられていない。難民は自分の力で隣国に逃げ延びるしかない。たとえそこが本国と同様に経済レベルが劣悪であったり政情が不安定であったりしても。

また欧米には難民の受け入れに積極的な国もみられるが，日本における難民受け入れ数はほぼ皆無である。

[知っておこう]

練習問題［14］が取り上げている年代は，20 世紀後半であり，21 世紀に入ってから顕著になった対外戦争（アメリカ合衆国によるアフガニスタンへの攻撃など）は含んでいない。ルワンダ内戦を典型的な例として捉えよう。1990 年代に勃発したルワンダ内戦はツチ族とフツ族の対立に起因するもの。国連の平和維持活動も行われたが十分ではなく，多数生じた難民は自らの足で隣国のコンゴ民主共和国などへと流出した。例えば，日本が海外からの難民をほとんど受け入れていないなど，先進国による難民保護はまだまだ問題点が多い。

<チェック！>

ロシアやグルジア(ジョージア)，アゼルバイジャンなどが国境を接するカフカス地域は民族・宗教構成が複雑で，古い時代より紛争や内戦が絶えない。またカフカス山脈の北に接するチェチェン共和国(ロシア連邦を構成する共和国の一つ)はイスラム教徒が多い地域で，独立の気運も高い。凄惨なテロ行為も頻発している。

２．９　（参考）古い時代の人口移動

古い時代の人口移動には，「金を求めて」の移動という側面は少なく，より多様なパターンがみられる。**練習問題［15］**を参考に，それらについて整理しよう。

①；アイルランドからアメリカ合衆国への移動；イギリスの支配を逃れ，信教の自由を求め，新大陸への移民が生じた。

②；イベリア半島からラテンアメリカへの移動；スペインやポルトガルから当時植民地だったラテンアメリカへと多くの人々が移動した。宣教師も含まれる。

③；ギニア湾岸から南北アメリカ大陸への移動；奴隷が新大陸のプランテーションに送られた。強制的な移住の例。

④；シベリアへの移動；流刑地だったシベリアに囚人が送られた。同様の例にオーストラリア大陸がある。

⑤；華南から太平洋沿岸地域への移動；人口過剰地域である華南から東南アジアや北アメリカ大陸太平洋岸などへ多くの移民が生じた。彼らは華僑と称されるが，現地人化した者は華人とよばれる。

ワンポイント

古い時代の人口移動の例として，華僑について知っておくといいだろう。

中国南部の華南地域は山がちな地形で耕地に恵まれず，人口支持力が低い。このため，かつてこの地域から東南アジアを中心に太平洋沿岸地域へと多くの移民が流出した。これが華僑である。多民族国家マレーシアでは人口の20％以上（３割として覚えておくといい）が中国系住民（華人）によって占められているが，彼らは農園・鉱山労働者として流入した華僑の子孫である。とくに東南アジアの中国系住民は経済的な実権を握っているが，移民がこのような経済的強者になる例は他にはほとんどみられない。

なお，華南は現在は内陸部から多くの出稼ぎ労働者を迎え入れる人口流入地域へと転化している。複雑な海岸線をもち港湾に恵まれ，経済特区も設けられた。多くの外国系企業が進出することで，経済発展が著しい「世界の成長センター」。

第２講
人口移動［練習問題］

［１］　人の空間的な動きは，居住地の移動を伴う人口移動と，居住地の移動を伴わない人口移動に大別される。前者は，さらに国際的な移動と，国内の地域的移動とに分けられる。居住地の移動を伴わない日常的な人口流動の範囲には距離上の限界がある。この人口流動を引き起こす各種の施設・機関は，主として都市に集積する。このため，都市を中心にさまざまな人口流動圏が成立しており，これらが，都市圏を設定する際の重要な指標となっている。

下線部について述べた次の文①～④のうちから，下線部に誤りのあるものを一つ選べ。

（1988 年度地理本試験第４問問１）

① 第二次世界大戦後，多くの発展途上国においては，人口は主として農村から都市へ移動している。

② アメリカ合衆国への移民は，合衆国独立以前の東ヨーロッパ・南ヨーロッパからの農業移民に始まったが，19 世紀末からは西ヨーロッパからの移民が主に都市に流入した。

③ わが国の国内人口移動は，第二次世界大戦後の高度経済成長期には，地方から三大都市圏への移動が主であったが，近年では，その流れは多様化している。

④ 国際的な出稼ぎの場合，労働力は一般に賃金水準の低い国から高い国へ移動する。

［2］　世界の各地域において発生した人口移動を説明した次の文①～⑤のうちから，誤っているものを二つ選べ。ただし，解答の順序は問わない。

（1998 年度地理Ｂ追試験第２問問２）

① アメリカ合衆国では，最近，西海岸から東海岸へ多くの企業が移転して，それに伴う人口移動が活発となった。

② 香港では，中国への返還を控え，1980 年代以降カナダなどの先進諸国への移民が増加した。

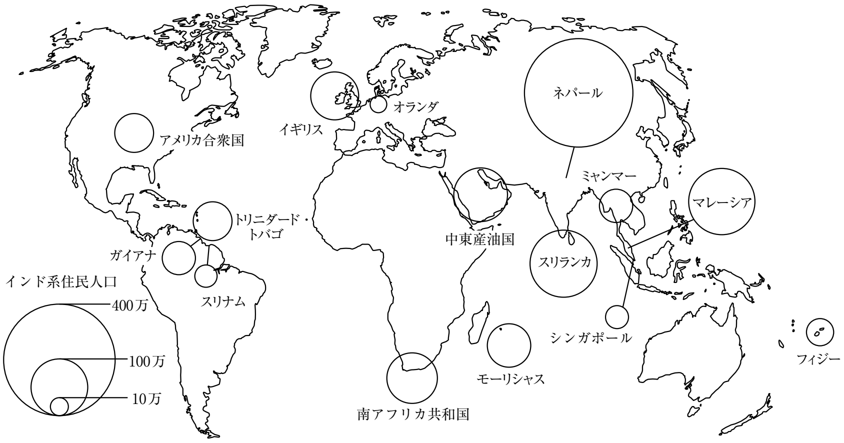
③ 人口を吸収してきた中南米の大都市では，最近，農村部への人口逆流の方が多くなり，農村部での人口爆発が生じている。

④ ベトナム戦争終了時，ベトナムやその周辺地域からボートピープルとして日本に漂着する難民がみられるようになった。

⑤ 第二次世界大戦後の西ドイツでは，地中海沿岸やトルコなどから大量の外国人労働者が流入した。

［3］　インド系住民は，世界の多くの国々に居住する。次の図4は，インド系住民の国・地域別分布を示したものである（インド，パキスタン，バングラデシュを除く）。図4に関する説明文として誤っているものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2000年度地理B本試験第2問問7）



インド系住民が10万人以上の国・地域のみを表示。データは1980年代。
『アジア読本 インド』により作成。

図4

①　中東産油国には，工業化や社会資本の整備に伴って生じた労働力不足を補うため流入したインド系住民が多く居住する。

②　マレーシアには，イギリスの植民地時代にゴム農園の労働者として移住したインド人の子孫が多く居住する。

③　南アフリカ共和国には，アパルトヘイト廃止後に，労働者として移住したインド系住民が多く居住する。

④　ガイアナやスリナムには，奴隷制の廃止に伴って，新たな労働力として移住したインド人の子孫が多く居住する。

［４］　20世紀の後半になると，経済成長が著しい地域と停滞している地域との経済格差の拡大に伴って，国際的労働力移動が世界各地で発生した。こうした労働力移動について述べた次の文章①～④のうちから，下線部が適当でないものを一つ選べ。

（1999年度地理Ａ本試験第２問問２）

①　1960年代には，地中海沿岸の国々からドイツとフランスへの移動が目立っていた。その多くは，両国の工業発展で不足した農業労働力を補うものであった。

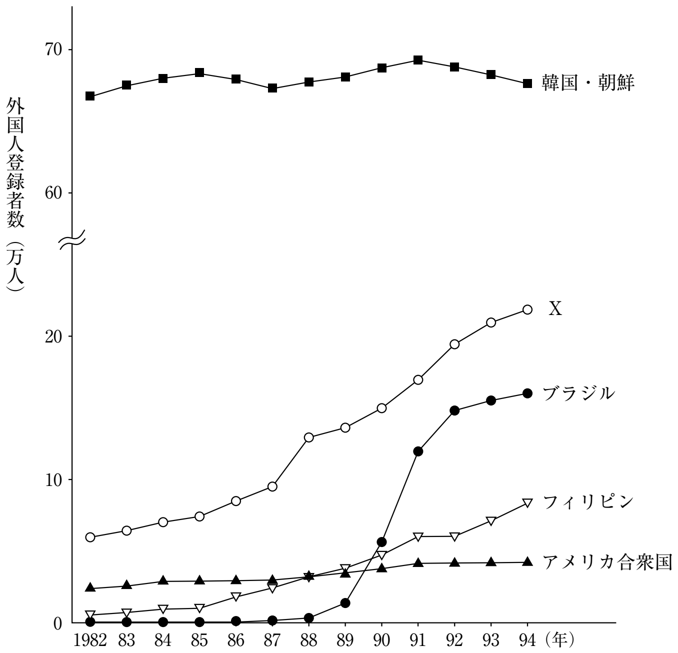
②　1970年代後半には，東南アジアや南アジアから中東地域への移動が目立つようになった。その多くは石油収入の増大で建設ブームとなったこの地域の建設労働力として募集されたものであった。

③　1980年代以降，アメリカ合衆国には東南アジアからの移動が顕著になった。その背景の一つには，1970年代後半以降に受け入れてきたインドシナ難民による家族の呼び寄せがあった。

④　1990年ごろ，それまで中東に向けて多くの労働力を送り出していた東南アジアでは，域内での流動が目立つようになった。これは，同地域内での急速な工業化を反映している。

［5］(1)　次の図1は，1994年における国籍別の外国人登録者数の上位五つの国籍について，最近12年間の登録者数の変化を示したものである。次の図1中のXに該当するものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（1997年度地理A追試験第2問問2）



「出入国管理統計年報」により作成。

図1

①　イラン　　②　タイ　　③　中国　　④　バングラデシュ

(2)　図1を見ると，1990年以降，ブラジル人の登録者数が急速に増加していることがわかる。その理由について述べた次の文①～④のうちから，最も適当なものを一つ選べ。

（同・問3）

①　ブラジルの日系人は，単純労働者としても合法的に滞在できるようになったから。

②　ブラジルから流出した政治難民を，日本は多く受け入れているから。

③　ブラジルへ移住して現地の国籍を取得した日系人が高齢化し，そのほとんどが日本へ帰ってきたから。

④　サッカー選手などのように，専門的な就労資格を取得したブラジル人が，近年多く入国するようになったから。

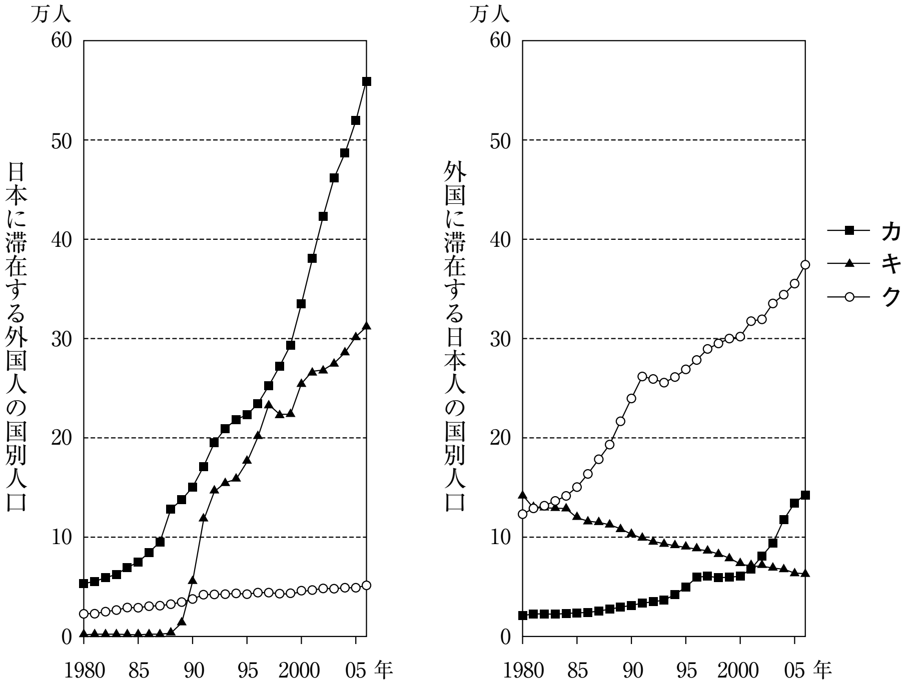
［6］ 次の図３は，日本に滞在する外国人の国別人口（＊）と外国に滞在する日本人（＊＊）の国別人口の変化を示したものであり，**カ〜ク**はアメリカ合衆国，中国（＊＊＊），ブラジルのいずれかである。図３中の**カ〜ク**と国名との正しい組合せを，次の①〜⑥のうちから一つ選べ。

（＊）国籍別外国人登録者数。

（＊＊）日本国籍を有し，外国に３か月以上滞在または永住する者。

（＊＊＊）台湾，ホンコン，マカオを含む。

（2010年度地理Ａ本試験第３問問３）



法務省入国管理局の資料などにより作成。

図３

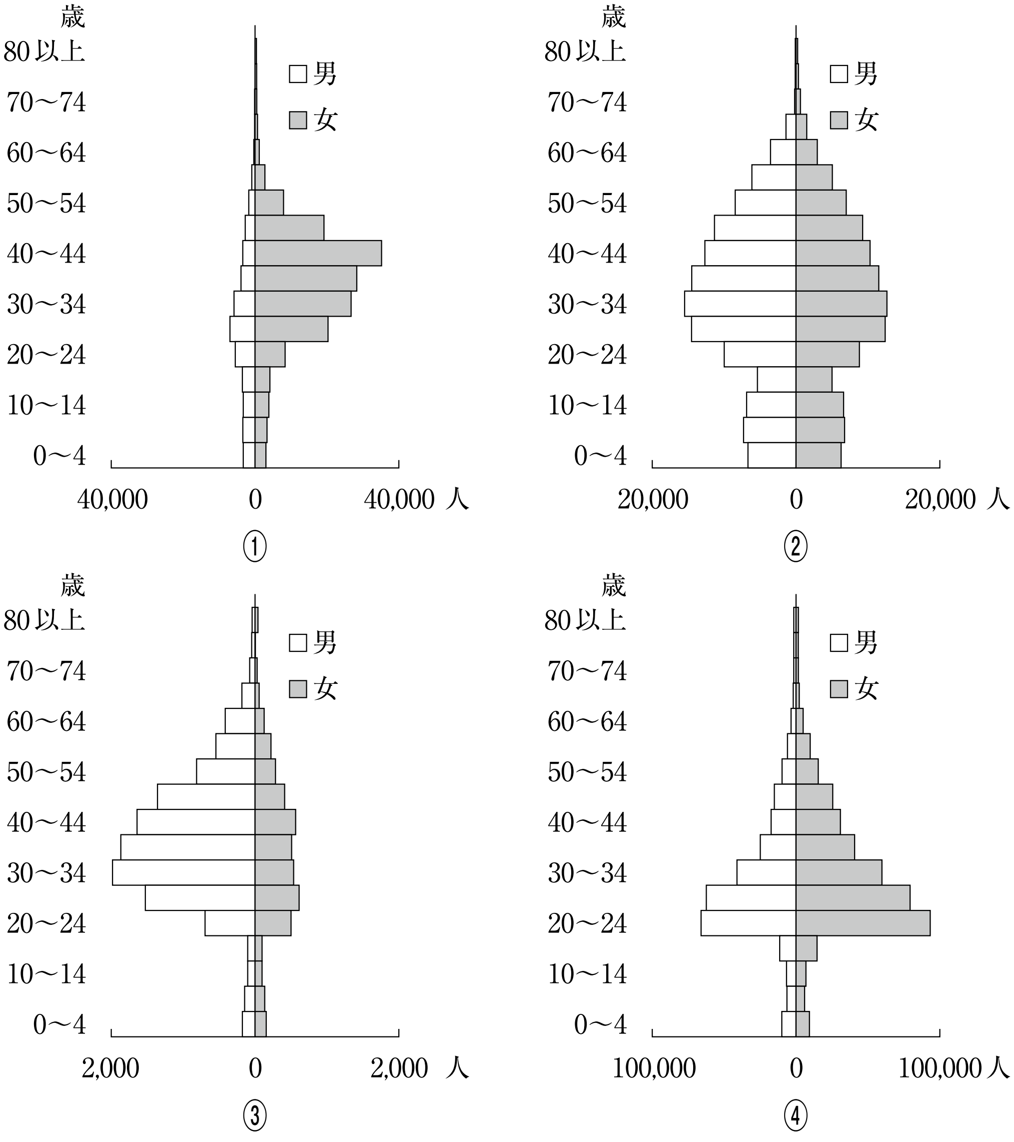
	カ	キ	ク
①	アメリカ合衆国	中国	ブラジル
②	アメリカ合衆国	ブラジル	中国
③	中国	アメリカ合衆国	ブラジル
④	中国	ブラジル	アメリカ合衆国
⑤	ブラジル	アメリカ合衆国	中国
⑥	ブラジル	中国	アメリカ合衆国

［７］　次の図３は，2010 年の日本に在住する外国人について，男女別年齢構成（＊）を示したものであり，①～④はイギリス，中国（＊＊），フィリピン，ブラジルのいずれかである。ブラジルに該当するものを，図３中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）国ごとに横軸の最大値が異なる。

（＊＊）台湾，香港，マカオを含む。

（2014 年度地理Ａ本試験第２問問６）



法務省の資料により作成。

図３

［8］　次の表３は，海外のいくつかの都市に在留する日本人について，永住者（＊）と長期滞在者（＊＊）の男女別人数を示したものであり，①～④は，カイロ，サンパウロ，シドニー，バンコクのいずれかである。バンコクに該当するものを，表３中の①～④のうちから一つ選べ。

（＊）在留国より永住権を認められている人。

（＊＊）３か月以上その国に在留する人（永住者は除く）。

（2012 年度地理Ａ追試験第２問問５）

表３

（単位：人）

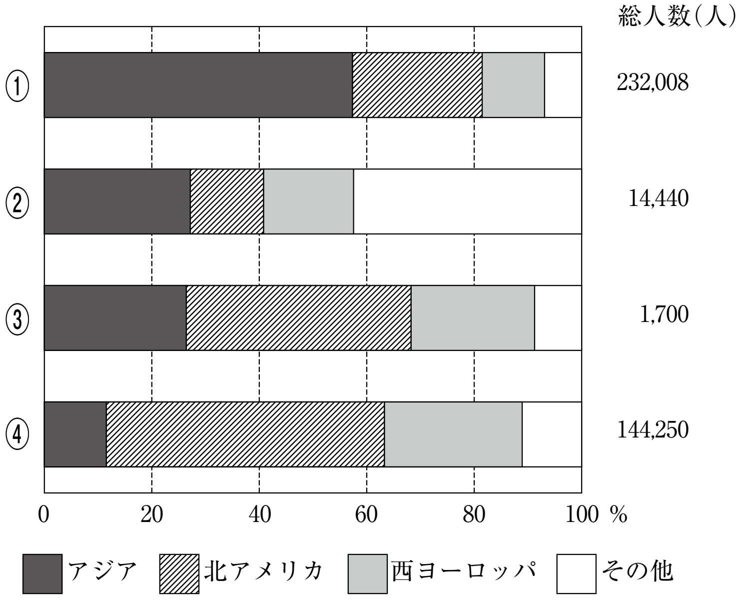
	永住者		長期滞在者	
	男性	女性	男性	女性
①	6632	5742	741	489
②	4433	7632	5236	8946
③	392	248	20299	11344
④	49	110	320	353

統計年次は 2008 年。

外務省『海外在留邦人数調査統計』により作成。

［9］　次の図4は，海外に長期滞在する日本人の職業のいくつかについて，それぞれの総人数と滞在地域別の割合を示したものであり，①～④は，政府関係職員，報道関係者，民間企業関係者，留学生・研究者・教師のいずれかである。政府関係職員に該当するものを，図4中の①～④のうちから一つ選べ。

（2011 年度地理Ａ本試験第２問問６）



アジアには西アジアを含まない。北アメリカはアメリカ合衆国およびカナダ。
統計年次は2007年。
『海外在留邦人数調査統計』により作成。

図4

［10］　国境を越える労働者の移動は，国家間や地域間の経済的格差を背景とすることが多い。アジアとオセアニアにおける労働者の移動について述べた文章として適当でないものを，次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし，解答の順序は問わない。

（2006年度地理A追試験第2問問2）

① インドは，サウジアラビアなどの産油国に多くの労働力を送り出している。また，旧宗主国のイギリスに向かう労働者もみられる。

② オーストラリアでは，1970年代半ば以降，白豪主義政策が廃止され，アジア系の労働者が増加した。これに加えて近年では，ヒスパニック系の労働者の増加がめざましい。

③ タイは，主にアジアの国々や地域へ労働者を送り出してきた。近年では経済発展にともなって，逆に隣接するミャンマーなどから多くの労働者が流入している。

④ 中国は，世界各地に多くの労働者を送り出してきた。しかし，近年の急速な経済発展は，逆に近隣の国々から出稼ぎのために流入して低賃金で働く労働者によって支えられている。

⑤ 日本では，明治以降，南北アメリカ大陸などへの移民が盛んに行われた。近年では企業の海外進出とともに，アジア諸国で暮らす日本人の数が増加している。

⑥ フィリピンでは，近年になって工業生産が活発になっている。しかし，国民の中の所得格差は大きく，西アジアやアメリカ合衆国などへ働きに出る人々も多い。

［11］　次の文章①～④は，サウジアラビア，シンガポール，ドイツ，日本のいずれかの国における外国人労働者について述べたものである。サウジアラビアに該当するものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（2004 年度地理Ａ本試験第３問問４）

① 1960 年代以降の経済成長期に外国人労働者が増加した。しかし，その後の不況や失業率の上昇を背景に，排斥運動などが発生している。

② 1970 年代の建設ブーム時に，多数の外国人労働力を受け入れた。現在は労働力の約半数が外国人によって占められている。

③ 1970 年代の中継貿易の発展と工業化を契機として，外国人労働力を受け入れた。ただし，その受け入れには政府による制約が設けられている。

④ 1990 年ごろから外国人労働者が急増した。この国からかつて送り出された移民の子孫が就労するケースもある。

［12］　労働力の国際的な移動が活発になっているが，国・地域によって外国人の受入状況は様々である。次の①～④の文は，クウェート，ドイツ，日本，マレーシアにおける現在の状況を説明したものである。日本に該当するものを，①～④のうちから一つ選べ。

（2008 年度地理Ａ追試験第２問問６）

① 外国からの労働者にも自国民とほぼ同程度の社会保障制度が適用されるが，外国人排斥運動もみられる。

② 周辺諸国からの労働者が多いが，こうした労働者には，国民としての権利が認められず，自国民との生活格差も大きい。

③ 単純労働を目的とした外国人の入国を原則として認めていないが，かつて他国へ移住した自国民の子孫に対する例外措置がある。

④ 特定の国からの移住者の経済的な影響力が強いために，多数派民族の生活向上を図る政策が行われている。

[13]　日本と同様に出稼ぎ労働者が多くみられる国として，サウジアラビアやアラブ首長国連邦などのアラブ産油国がある。これらの国々の外国人出稼ぎ労働者について述べた次の文①～④のうちから，誤っているものを一つ選べ。

（1997年度地理Ａ追試験第２問問４）

①　出稼ぎ労働者の出身地の多くは，イエメン・エジプト・インドなど，アフリカやアジアの発展途上国である。

②　アラブ産油国の中には，総人口の半数以上を出稼ぎ労働者が占める国もある。

③　アラブ産油国に出稼ぎ労働者が集まるのは，石油収入に基づく豊かな経済があるからである。

④　サウジアラビアやクウェートでは，流入してきた出稼ぎ労働者の中で現地の国籍を取得する人々が急増している。

[14]　20世紀後半には難民の国際的移動も数多く発生したが，それに関する文として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

（1999年度地理Ａ本試験第２問問４）

①　近年の難民の国際的移動は，国内の民族対立や経済問題よりも国家間の紛争に起因している。

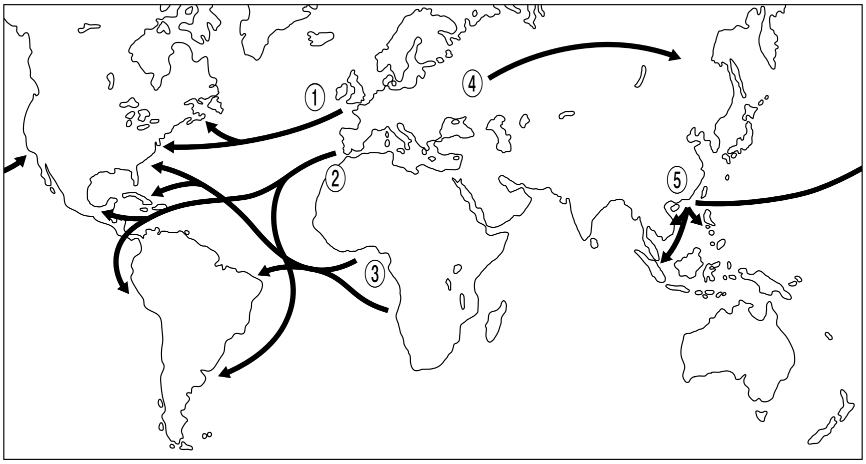
②　グルジア（ジョージア）などのカフカス地方では，旧ソ連からの分離・独立によって難民問題は解決し，難民の国際的移動はほとんどみられなくなった。

③　難民の国際的移動は，受け入れ余地の大きい先進国よりも，近隣の発展途上国へ向かう場合が多数を占めている。

④　近年，多くのボートピープルが日本の沿岸に到着したが，現在，これらの経済難民の大部分は日本に定住している。

[15]　次の図２中の①～⑤は，16 世紀以降における世界の主な人口移動を示している。また，下の文章Ａ・Ｂは，かつて多くの移住者がみられた国について述べたものである。Ａ・Ｂの文章と関係が深い人口移動を，図中の移動①～⑤のうちから，それぞれ一つずつ選べ。

（1995 年度地理追試験第６問問３）



Ogden，P.「Migration and Geographical Change」(1984)の図を簡略化。

図２

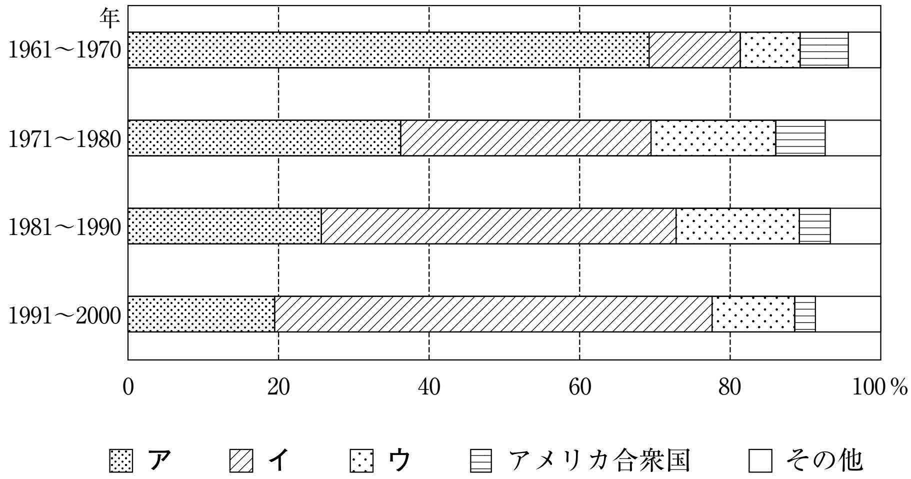
Ａ　この国南部の海岸地域は人口が過剰で，経済的活路を求めて国外に移住するものが多くみられた。移住先では主に都市に住んで，商業や飲食業などに従事し，これらの人々が国民の多数を占める国もある。

Ｂ　ケルト系民族からなるこの国では，19 世紀初期に隣国に併合されると地主制が強化され，19 世紀中ごろの飢饉を契機として，大量の難民が国外に流出した。

第２講
人口移動［確認テスト］

［１］　次の図２は，カナダへの移民の出身地域・国別割合の推移を10年ごとに示したものであり，**ア〜ウ**はアジア，中央・南アメリカ，ヨーロッパのいずれかである。図２中の**ア〜ウ**と地域名との正しい組合せを，下の①〜⑥のうちから一つ選べ。

（2009年度地理Ｂ本試験第５問問４）



*Census of Canada*により作成。

図２

	ア	イ	ウ
①	アジア	中央・南アメリカ	ヨーロッパ
②	アジア	ヨーロッパ	中央・南アメリカ
③	中央・南アメリカ	アジア	ヨーロッパ
④	中央・南アメリカ	ヨーロッパ	アジア
⑤	ヨーロッパ	アジア	中央・南アメリカ
⑥	ヨーロッパ	中央・南アメリカ	アジア

［２］　次の文章は，国際的な労働力の移動について説明したものである。文章中の下線部①～④のうちから，適当でないものを一つ選べ。

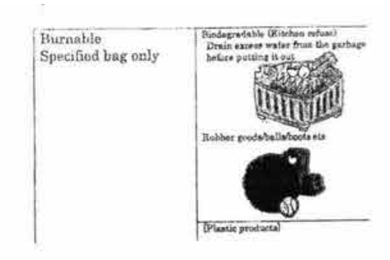
（2010 年度地理Ｂ本試験第６問問３）

労働者は，よりよい雇用機会を求めて国際的に移動することがある。例えば，①南アジアからは，多くの人々が西アジアの産油国へ出稼ぎ労働者として移動しており，最近では，②インドのソフトウェア技術者の先進国への移動もみられる。③ブラジルでは，かつて工業労働者として受け入れた日本人の子孫が，出稼ぎ労働者として日本に移動する例も多い。このため，外国人労働者の多い自治体では，④日本語教育の機会を設けたり，多言語表示を増やしたりするなど，様々な対策に取り組んでいる。

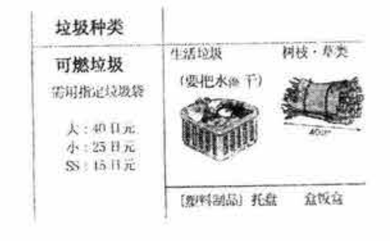
［**３**］ ユカさんは，佐賀市から配布される家庭ゴミの分類表の中に，外国語で表記されたものを見つけ，身近な地域に多くの外国人が生活していることを知った。次の図**６**中の**カ**～**ク**は，家庭ゴミの分類表の一部と，そこに記載されたそれぞれの言語や文字を使用する韓国・朝鮮，中国，フィリピンを国籍とする外国人のいずれかについて述べた文である。また，下の図**７**中の**P**～**R**は，それらの外国人について，佐賀県における国籍別の外国人登録者数の年次推移を示したものである。**カ**～**ク**と**P**～**R**との正しい組合せを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（2011 年度地理Ｂ本試験第６問問６）

カ　サービス業を中心に，多くの労働者が流入したが，2000 年代半ば以降，外国人の就労に関する入国審査の厳格化により登録者数が減少した。



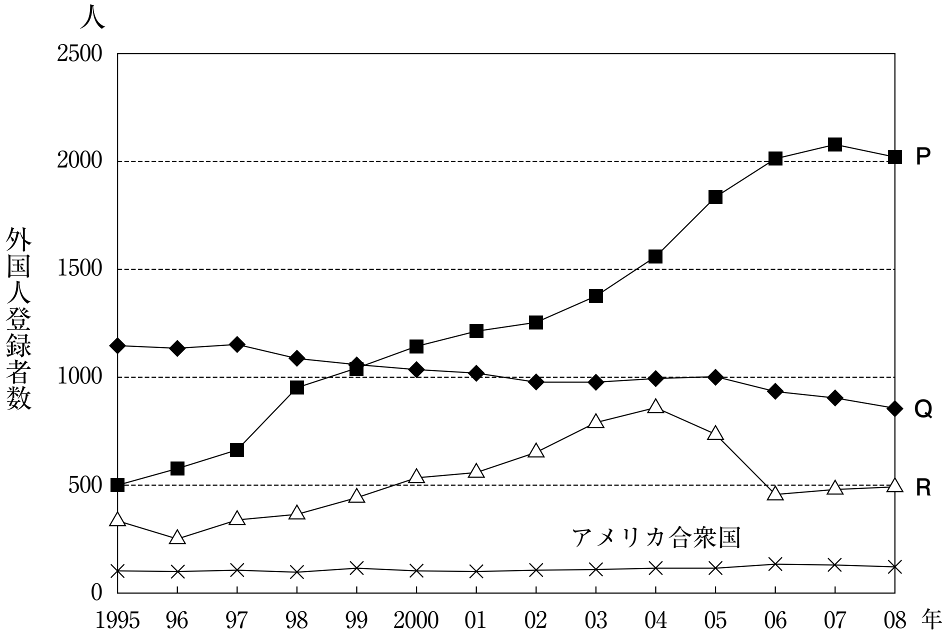
キ　近年の著しい経済成長により，日本との経済的な結びつきを強めるとともに，留学生や研修生などとして多くの人々が来日している。



ク　近代以降，日本に移り住んだ人々が数世代にわたって暮らしているが，近年では，日本国籍を取得する者も増えつつある。

佐賀市のゴミ分類表の一部を引用。

図**６**



佐賀県国際課の資料により作成。

図７

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	P	P	Q	Q	R	R
キ	Q	R	P	R	P	Q
ク	R	Q	R	P	Q	P

［4］　次の写真１中の**サ**～**セ**は，図１中の都市**K**における特徴的な景観を撮影したものである。写真１中の**サ**～**セ**が示していることがらとその背景について述べた文章として下線部が適当でないものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

（2014 年度地理Ｂ本試験第４問問４）

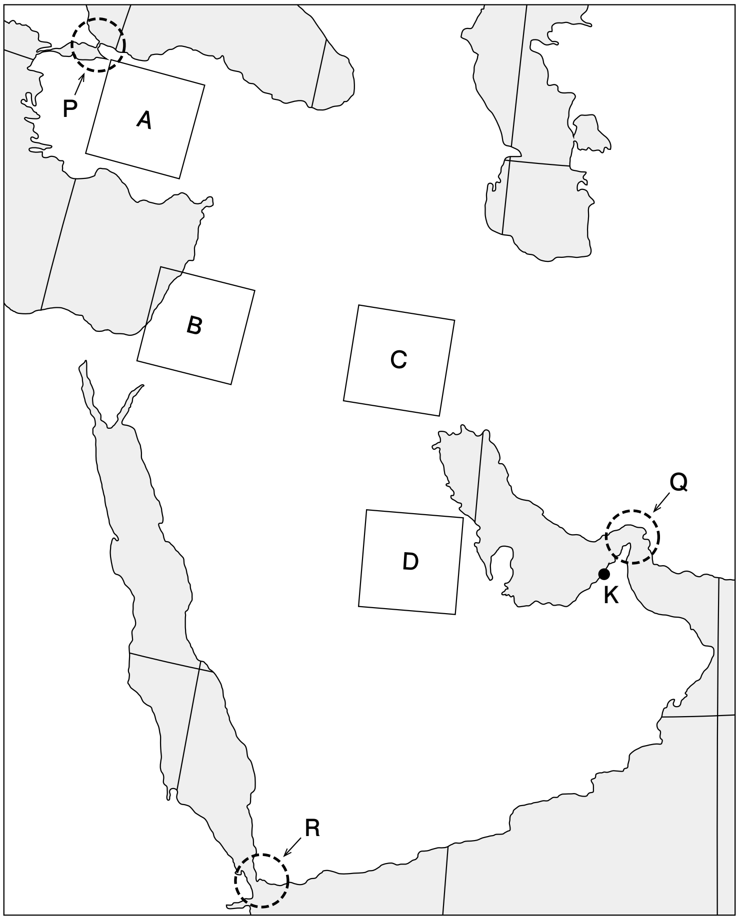


図１

著作権の都合により非公開

サ

著作権の都合により非公開

シ

著作権の都合により非公開

ス

著作権の都合により非公開

セ

写真１

① **サ**は，林立する高層ビル群を示したものである。国際的な金融拠点としての発展にともない，世界中から多くの投資が集中している。

② **シ**は，臨海部に整備された人工港を示したものである。輸出指向型の工業化の結果，西アジア最大の自動車生産・輸出拠点が形成されている。

③ **ス**は，海上に建設された居住・リゾート施設を示したものである。非石油部門での経済発展をめざし，大規模な観光開発が急速にすすめられている。

④ **セ**は，外国人労働者が働く建設現場を示したものである。不動産開発ブームを背景に労働力需要が高まり，国外から多くの労働者が採用されている。

［5］　次の図1中のa～cは，16世紀以降の南北アメリカ大陸への国際的人口移動のいくつかを示しており，下の文P～Rは，a～cのいずれかの移動の特徴について説明したものである。それぞれの移動とその説明の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。

（1999年度地理A本試験第2問問1）

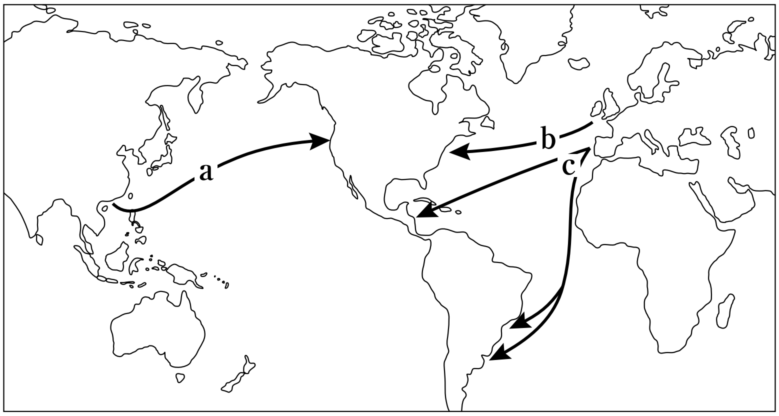


図1

P　初期の移動は，キリスト教の布教や貴金属を求めての移動であり，先住民との混血が進んだ。

Q　主に鉱山・農園労働者としての移動であったが，現在では，彼らの子孫は商業・金融分野で活躍している。

R　主に信教の自由を求めての移動であり，また農業開拓移民としての移動でもあったが，現在ではその移動数はわずかである。

	①	②	③	④	⑤	⑥
P	a	a	b	b	c	c
Q	b	c	a	c	a	b
R	c	b	c	a	b	a

第２講　人口移動　解答

［１］正解；②

人口移動の原則は「経済レベルの低い地域から高い地域へ」。①の「農村から都市」，③の「地方から三大都市圏」，④の「賃金水準の低い国から高い国」は全てその条件を満たし正文。誤りは②である。２つの下線部を入れ替える。独立以前の移民は主に西ヨーロッパから。当時はイギリス植民地であり，アングロサクソン系が多く流入した。独立後は次第に南ヨーロッパなどからの移民も増え始める。イタリア系など。

［２］正解；①・③

練習問題［１］と同様。ここでは選択肢③の「農村部への人口逆流」に注目してほしい。一般に経済レベルが高いのが都市であり，農村は低い。経済原則にかなうのは「農村から都市への移動」であり，反対はあり得ない。③が誤り。

もう一つの誤文は①である。「西海岸」と「東海岸」を入れ替えよう。アメリカ合衆国で初期に開発されたのは東海岸。ヨーロッパからの移民を受け入れ，多くの都市が建設された。それに対し，西海岸の開発は時期が新しい。ゴールドラッシュが起こり，多くの白人たちがカリフォルニア州へ押し寄せたのも19世紀中頃が中心である。

［３］正解；③

「アパルトヘイト廃止後」が誤り。アパルトヘイト（人種隔離政策）が撤廃されたのは1990年代に入ってからであり，本問で扱っているデータの年次（1980年代）はまだアパルトヘイトは続いている。南アフリカ共和国は金鉱など価値の高い鉱産資源にあふれた国であり，鉱山労働力として多くのインド人が流入した。しかし支配層であるヨーロッパ系によって，カラード（黒人やインド系住民）を差別するアパルトヘイトが実施され，鉱山からの利益は彼らに独占された。そもそものインドからの移民の流入が金鉱での労働を目的としたものであるのだから，順序としては「鉱山開発→移民の流入→アパルトヘイト」が正しい。選択肢③にあるような「アパルトヘイトの廃止→移民の流入」では順番がおかしいことになる。

①について。現代の典型的な人口移動。オイルマネーでうるおう西アジア諸国に，工業（この場合は製造業ではなく建設業）労働力として人口移動が生じた。

②について。こちらは過去の人口移動。工業ではなく，農業のための移動である。マレーシア独立以前のマレー半島では天然ゴム栽培がさかんに行われていたが，不足する労働力を補うために，インドなどからの移民を多く迎え入れた。

［4］正解；①

「20世紀の後半」なので現代の人口移動である。「農業労働力」が不適切。工業の労働力である。

［5］正解　（1）③　（2）①

（1）　1980年代以降急激に増加している。中国からの入国者には留学生が多いことも知っておこう。なお，韓国・朝鮮については古い時代に日本へと流入し，その子孫が多いことが特徴。しかし若い世代を中心に，日本国籍へと変更する者も多く，近年はやや減少している。

（2）　1990年代に入り，出入国管理法が改正された。それまでは外国人の単純労働を目的とした入国は大きく制限されていたが，日系人（海外に居住する日本人の子孫）については条件が緩和された。これにより，そもそもの日系人人口が多いブラジルからの流入がこの時期に急増した。

②について。日本はほとんど難民を受け入れていない。

③について。日本からブラジルへの移民で日本に帰ってくる者は少なく，多くが永住している。

④について。この例としてフィリピンがある。興行を目的としてフィリピンから日本へと多くの出稼ぎが生じた。ただし，現在は入国審査が厳しくなったため，その数は減少している。

［6］正解；④

練習問題［5］の統計はやや古かったので，より新しい統計で日本国内の外国人登録者数を確認しておこう。カが中国。現在は韓国・朝鮮を追い抜き，国籍別では1位となっている。キはブラジル。90年代前半に急増しているが，理由は上述の通り。日系人が家族を連れて入国し，とくに自動車工業都市に多い。しかし，近年はその伸び方は鈍化している。クはアメリカ合衆国。こちらはアメリカ合衆国に住む日本人がとくに多いことに注目しておこう。人口移動の大原則は「経済レベルが低いところから高いところ」であり，日本人が移動する場合も先進地域のアメリカ合衆国が主要な行き先となる。留学生や企業関係者が多い。

［7］正解；②

それぞれのグラフの下の目盛りに注目。全体として数が多い④が中国。20代が多いのは留学生だろう。逆に少ない③がイギリス。ヨーロッパからの入国は少ない。

①は女性に偏っている点が特徴的でフィリピンである。興行を目的として入国し，飲食店などで働く女性が多かった。最近は，介護士などを目指し研修生として来日するフィリピン人女性も増加している。

残った②がブラジルである。主に自動車工場の労働力として入国しているのでやや男性が多いが，家族で来日しているケースも多く，女性や子供も比較的多い。ブラジル人が多い地域では小学校でポルトガル語を教えるなど，教育の面にも配慮が必要となる。

［8］正解；③

ブラジルに居住する日本人は，永住者の割合が高い。①がブラジルのサンパウロ。

一方，タイは日系企業の進出数が多い国（1位中国，2位アメリカ合衆国，3位タイ）。企業関係の長期滞在者が多いはずで，③がタイのバンコクとなる。

エジプトは日本と密な関係にある国ではなく，永住者・長期滞在者いずれも少ない。④がエジプトのカイロ。

残った②がオーストラリアのシドニー。国の規模（人口2000万人）の割には日本人の居住者が多いが，長期滞在者の中にはワーキングホリデー制度を利用した留学生が多数含まれていると考えられる。とくに英語圏であるため，言語習得を目的とする留学生も多いのだろう。

［9］正解；②

中国やタイなどアジア地域には多くの日系企業が設立され，安価な労働力を利用した工業製品の生産がさかんに行われている。民間企業関係者に占めるアジアの割合は高いものが想像され，①が「民間企業関係者」となる。総数が最も多いことにも納得。

次いで人数が多く，北アメリカや西ヨーロッパの先進地域への割合が高いことから，④が「留学生・研究者・教師」となる。区分としては留学生，研究者，教師であるが，そのほとんどは留学生によって占められていると解釈して欲しい。人口移動はそもそも「経済レベルの低い地域から高い地域」であるが，この原則が最も典型的に現れるものが留学生の移動なのだ。日本国内には中国からの留学生が

多く，日本人の留学先は主に欧米の先進国である。より高度な教育を受けられる先進国へと学生が移動する様子を考えよう。

残った②と③のうちで，「政府関係職員」に該当するのはどちらだろう。政府関係職員については，各国の日本大使館で働く職員を具体的に想像してみたらいい。多くの国に大使館が置かれているので，国の数が多い地域ならば政府関係職員の数も多くなるはずだ。北ヨーロッパや西ヨーロッパに含まれる国の数は限られているのに対し，それ以外はアフリカや中南アメリカ，東ヨーロッパなど多くの国が考えられる。その他の割合が高い②を政府関係職員と判定し，これが正解。

残った③が「報道関係者」である。世界約190か国に合計1700人なのだから，１か国あたりの平均は10人程度ということになる。規模の小さい国も多いことから，これぐらいの人数は妥当だろう。やはり経済や文化の中心である北アメリカや西ヨーロッパに滞在する報道関係者は総体的に多くなっているなど，地域間のバランスは偏っていることにも注目しておこう。

[10]正解；②・④

②について。「ヒスパニック」とはスペイン語を母語とする人々の意味で，メキシコやカリブ海地域からの移民を指す。彼らの行き先は近隣の先進国であるアメリカ合衆国。アメリカ合衆国内にはすでにヒスパニックが５千万人もいると言われており，都市部ではスペイン語の方が通用するところもある。オーストラリアは近年アジア地域との経済的なつながりを重視しており，アジアからの移民が多い。

④について。中国は経済レベルの高い国ではなく（１人あたりＧＮＩは10000ドルに達しない），原則として外国から労働者が流入する国ではない。中国の出稼ぎについては国内の移動として考える。経済レベルの地域差が激しく，豊かな沿海部と貧しい内陸部との格差は大きい。このためスーチョワン省など内陸部からコワントン省やシャンハイ市などの沿海部に向けて，出稼ぎ労働者の流動がみられる（この巨大な人の流れを「民工潮」という）。

[11]正解；②

ポイントとなる語句を探っていこう。日本については④の「子孫」がキーワード。昭和初期などに日本からブラジルへ多くの農業移民が生じ，彼らの多くは現地で「日本人」として暮らしている。しかしその子孫たちはブラジルの国籍となり，日本人の血を引いた者として「日系人」と呼ばれる。日系人の中には日本へと出稼ぎ

にやってくる者も多い。

さらにドイツについては①の「排斥」がキーワード。ドイツは1960年代を中心とした戦後復興と高度成長期にトルコから多くの出稼ぎ労働者を迎え入れた。オイルショックによる不況により彼らの多くは失業したものの，現在でもドイツ国内にとどまり，主に都市で生活している。しかしトルコ人およびトルコ系住民は民族(言語)系統もドイツとは異なり，さらにイスラム教徒が多いため，文化的相違も大きい。一部では排斥運動も発生している。

サウジアラビアは「建設ブーム」が重要。1970年代のオイルショックにより西アジアの産油国は莫大なオイルマネーを手にした。これにより新たな都市施設の建設が進み，南アジアなど周辺の低賃金地域から多くの労働者を迎え入れた。人口に対する外国人の割合が極めて高いことがこれら産油国の特徴。②が正解。

なお，③がシンガポール。「中継貿易」がキーワード。

[12] 正解；③

練習問題[11]とほぼ内容が重なる。

同様にポイントになる語句をチェックしていこう。日本は「子孫」がキーワードで③が正解となる。ドイツは「排斥」で①。

なお，②のクウェートに注目しておこう。サウジアラビア同様に西アジアの産油国であるが，これらの国々には共通した問題点として，出稼ぎ外国人の劣悪な労働環境がある。十分な社会保障は与えられず，病気や怪我の際にも医療は万全でない。石油収入による利益を享受する自国民と，困難な生活を強いられる外国人労働者との格差は大きい。

④はマレーシア。マレーシアは，マレー系・中国系・インド系がそれぞれ６：３：１である多民族国家であるが，富裕な中国系と貧しいマレー系の間の経済格差が問題となっている。経済弱者であるマレー系住民を優遇するブミプトラ政策が実施されているが，中国系住民からの反発も強い。

[13] 正解；④

そもそも帰化は気軽にできるものではないが，とくにこうした貧しい出稼ぎ労働者に国籍を与えることはほとんど考えられない。豊かな生活は自分たちだけが享受し，出稼ぎ外国人には劣悪な環境での労働を強いる。

[14] 正解；③

例えばルワンダがある。1990年代にルワンダにて内戦が勃発し，国連軍が送られたが対応は十分ではなく，難民化した人々は自分の足で国境を越え，隣国のコンゴ民主などへ避難した。国連によって保護される難民は全体からみれば割合は高くない。

①について。本問の年代が「20世紀後半」であることに注意。21世紀になってアメリカ合衆国のアフガニスタン攻撃など国家間の戦争も増えてきたが，1990年代の時点ではそれは一般的なものではない。国内の民族対立や経済格差に起因する内戦が，戦争の主な原因である。

②について。グルジア（ジョージア）が位置するのはカフカス地方。民族・宗教構成が複雑であり，古来より対立が絶えない地域であった。ロシアからの独立を求めているチェチェン共和国（＊）もカフカス地域の北部に位置している。

（＊）チェチェン共和国はロシア連邦を構成する共和国の一つ。イスラム教徒が多い。

④について。日本はほとんど難民を受け入れていない。

[15] 正解　Ａ；⑤　Ｂ；①

Ａ；華南地方からの華僑の移動。華南地方は耕地に恵まれず，人口過剰地域となっている。かつてこの地域から多くの移民が東南アジアや日本，アメリカ合衆国の太平洋岸などに生じた。当初彼らは華僑と呼ばれたが，現地の国籍を得ると華人と呼ばれるようになった。

Ｂ；アイルランドからアメリカ合衆国への移動。イギリスに支配された歴史があり，農業も振るわない地域であるので，新大陸への移住者が多かった。アイルランド人はケルト系の民族。

第２講　人口移動　解答

［１］正解；⑤

「増加するものはアジアである」のだ。1960年代から2000年にかけてずっと増加しているイは「アジア」である。とくに，現代の人口移動とは１人当たりＧＮＩの低い国から高い国へと流動していくセオリーがある。経済レベルの低い中国から多くの移民が生じていることも想像する。時代を追うごとに，カナダにおいても中国をはじめとするアジアとの関係性は深くなっていくのだ。

残った２つについては，現在の割合には大きな違いはない。それならば，過去に遡って変化の度合いから推理するのだ。アは大きく割合を低下させているのに対し，ウは多少の変化はあるものの，目立った動きでもない。カナダはかつてはイギリス領であったし，現在もイギリス系の住民が多い。国民の過半数が使用する言語も英語である。古い時代はヨーロッパとのつながりが強く，そこからの移民も多かったのではないかと考えていいだろう。それがやがてアジアへと取って変わられていき，ヨーロッパからの移民の割合も低下していく。アをヨーロッパと判定する。

残ったウが中央・南アメリカ。ラテンアメリカの移民が主に流入するのはアメリカ合衆国であり，カナダへはさほど多くない。

［２］正解；③

人口移動の原則を考える。現代の人口移動は「工業労働力としての移動」。製造業や建設業の発達した地域へと，低賃金国から出稼ぎ労働者が流入する。単に「仕事を求めて移動する」だけではいけない。その中身まで考えるべき。

ただし，工業労働力としての移動は「現代」の社会に限定される。高度経済成長期には工業化著しい太平洋ベルトへと，日本各地から人口が移動した。オイルショックに続く時代には，オイルマネーに沸くペルシャ湾岸地域へと多くの出稼ぎ労働者が流入し，その多くは建設業に従事した。90年代初頭には出入国管理法の改正によってブラジルから日系人が多く来日し，わが国の製造業を支えた。拡大ＥＵにおいても，工業先進国である西ヨーロッパ諸国へと，経済レベルの低い東ヨーロッパ諸国から労働者が移入している。

本問で最大のポイントになる語句は「工業」なのだ。選択肢③参照。「ブラジルでは，かつて工業技術者として受け入れた日本人の子孫が」とある。「日本人の子

孫」については日系人と考えていいだろう。日系人とは日本人の血を引いたブラジル人のことでもちろん国籍はブラジルなので，日本から見れば彼らは「外国人」である。本来なら外国人の単純労働者としての入国と滞在を制限しているわが国であるが，日系人に関しては90年代以降その制限が緩和されている。90年代初頭にブラジル人の入国が急増したのはその影響だが，そもそもブラジル国内に日系人が多いという背景がある。

では，なぜブラジル人に日系人が多いのだろう？　それは20世紀初頭から中頃にかけて，多くの日本人たちが世界各地に移住していったのだが，その最大の行き先がブラジルであったからだ。彼らの多くは日本で貧困な生活を送っていたが，遥か新大陸に夢を馳せ，地球の裏側である南米大陸へ旅立ったのだ。今よりも「地球が広かった」時代であり，何ヶ月もの船旅に耐え，彼らはブラジルを目指したのだ。

さて，ここで一つポイントがある。彼らはどんな仕事を目的としてブラジルに渡ったのか。選択肢③にあるように「工業技術者」なのだろうか。たしかに１人当たりＧＮＩの高い日本は工業技術水準も高く，発展途上国であるブラジルに対しては指導する立場なのかもしれない。しかしここで考えてほしいのは「時代」である。先述のように，工業労働者としての移動は「現代」に限定される。ここで述べられている「工業技術者」もやはり工業労働者の一種なので，現代の人口移動を象徴するキーワードとなる。

しかし選択肢③が説明する時代はいつだろう。「かつて工業労働者として受け入れた」とある。現代ではなく，過去の人口移動なのだ。彼らが移住したのは何十年もの昔で，移住後に家族を作り，現地社会に適応した歴史がある。「子孫」という言葉にも注目しておこう。

つまりこの選択肢は過去の人口移動についてその理由を「工業」としているのだ。工業労働者としての移動はあくまで「現代」のキーワードであり，過去には適応されない。本選択肢はこの点において誤りなのである。

古い時代に日本からブラジルへと多くの移民が生じた理由は「農業」のためである。日本で仕事に恵まれない人々が，ブラジルへと渡り，農業労働者として働いた。大土地所有制による大農園が多く開かれているブラジルにおいて，農業労働者としての雇用は十分にあったのだ。「工場労働者」を「農業労働者」に改める。

［３］正解；⑤

カはフィリピン。かつてアメリカ合衆国に植民地支配されていたこともあり，英語が公用語の一つとなっている。「登録者数が減少」とある。ＱかＲが候補となる。

キは中国。漢字の国である。「近年の成長」と「多くの人々が来日」から，数値の急激な上昇のみられるＰに該当。

クは韓国・朝鮮。ハングル文字はよく知られた朝鮮半島で使用される表音文字。「数世代にわたって」とあり，昔から人数の多いＱが該当。最近はやや減少しているが，「日本国籍を取得する者」が増えた影響。

よってフィリピンはＲが該当。たしかに明らかに減少している。正解は⑤。

［４］正解；②

統計に基づいて考えればいい。「西アジア最大の自動車生産・輸出」が気になるのだが，自動車生産統計を確認してみよう。アメリカ合衆国，日本，ドイツの世界的自動車メーカーが本社を置く国は必須として，それ以外にも中国，ブラジル，タイといった低賃金国，さらにスペインやチェコ，カナダ，メキシコなど自由貿易経済圏（ＥＵや当時のＮＡＦＴＡ）に含まれ工場が進出している国，さらには韓国やインドなど自国メーカーによる生産が進む国など，いくつもピックアップされる，しかし，その中に西アジアの国が含まれているだろうか。ペルシャ湾岸の産油国で自動車工業がさかんな国は存在しない。

そもそも西アジアの産油国は１人当たりＧＮＩが高く，組立工業の立地には不利。人口規模もあまり大きくないので，現地生産のメリットも少ない。たしかに出稼ぎ労働者は流入しているのだが，それは高層ビルや道路のような都市施設を建設するためであり（写真セがわかりやすい），同じ工業であっても「製造業」ではなく「建設業」である。②が誤りとなる。

［５］正解；⑤

ａは中国南部から矢印が出ているが，この地域を華南という。フーチエン省やコワントン省など。人口過密にあえぐ貧困地域であった華南から多くの移民が海外に流出した歴史がある。東南アジアに移住した者が多いが，その一部は日本や，そして太平洋を越えてアメリカ合衆国にまで達した。Ｑが該当。移住当初は農園などの労働力であったが，やがてその地で頭角を現し，今は経済的に富裕となる者もいる。東南アジアのほとんどの国々では，中国系住民によって経済の実権が

握られている。

　スペインやポルトガルから中央アメリカ・南アメリカへの矢印は，彼らの植民地支配と関係あるだろう。新大陸で豊かに産出される銀を求め，スペイン人はメキシコやペルーの文明を破壊し，植民地として支配した。多くのカトリック僧も渡り，大いに彼らの宗教的精神を普及していった。ｃはＰに該当。混血が多い地域でもある。

　消去法によってｂがＲになる。アイルランドからアメリカ合衆国東部への移動。